



自分の考えを生き生きと表現できる子どもの育成 ～算数科の学び合いを支える取り組み～

大館市立城南小学校 教諭 田村 美穂子

1 はじめに

本校は、算数科の学び合いを通して「確かな学力を身に付け、豊かに表現する子どもの育成」を目指して3年目である。学び合いの充実を重視するとき、教科に対する教材研究が重要であることはもちろんだが、学級担任をしていて、最も育てる必要があったのが、子どもの授業に対する姿勢と子ども同士の間人間関係である。今年度低学年を担当し、「学び合い」ができる高学年を目指して学級経営を行ってきた。そこで有効であった城南小学校の取り組みを紹介したい。

2 城南小学校の教育目標「どの子どもも喜んで活動する学校」実現のために

- (1) マニフェスト
城南っ子3か条
2013
- 徳 キラッとさんになろう（生活指導部）
 - 知 学ぶ力を身に付けよう（学習指導部）
 - 体 元気に生活できる体をつくろう（健康指導部）

(2) 子どもの変容に特に有効であった取り組み

- ①キラッとさんで認め合い…縦割り清掃でのお掃除キラッとさんは、掃除の反省会の中で紹介され、更に今月のキラッとさんとして班長が書いた理由とともに学級担任に知らせられた。帰りの会で紹介されたキラッとさんとともに学年便りでも紹介。
- ②JDS委員会の取り組み…集会で学級のめあて・学級自慢の発表をしたことで、伝える楽しさを味わうとともに、学級のまとまりがよくなり、自己肯定感も高められた。
- ③生活委員会の取り組み…昼の放送であいさつ名人の紹介。5回紹介で殿堂入り。

3 算数科の取り組み

(1) 算数でめざす子ども像

- ①数量や図形に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける子ども
- ②解決への見通しをもって最後まで取り組む子ども
- ③自分の考えを数学的に表現し、伝え合おうとする子ども
- ④学んだことを生活や学習に活用しようとする子ども

(2) 学び合いの姿（例 高学年）

自分の考えや友達のことを分かりやすく説明する。
多様な考えのよさを見付け、自分の考えを深める。

伝え方	聞き方	問い返し方
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉・算数用語・数・式・図を活用したり、例示したりして説明する。 ・友達の考えを理解し、代わりに説明する。 ・多様な考えの中からよりよい考えを見付け、根拠を持って説明している。 ・相手の反応を確かめながら、分かりやすい方法で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と相手の考えを比較しながら聞き、相手の考えのよさを取り入れ、自分の考えを深める。 ・多様な考えを関連付けて友達の考えを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の分からないことを質問している。 ・友達の考えを補足説明して確認する。 <p>「つまり、〇〇さんの考えは、～ということですね。」</p>

(3) 算数科の授業展開例

段階	分	学習活動	教師の支援
つかむ	5	1 学習問題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が問題場面をイメージできるように、設定・数字・具体物などを工夫する。分かっていること、求めることに線を引かせる。 ・既習事項と違うところから課題につなげる、 ・既習事項の何を使うと解けそうかを考えさせる。 ・自力解決の時間に自分なりの考えをもてるようにする。途中まででもいいことにして時間をかけすぎないようにする。 ・本時のねらいにつながる考えを選んで発表させる。 ・発表された考えについて質問したり付け足したり反論したりして学び合う。 ・比較検討の場面では、「なぜそうなるのか」を問いかけたり、「速く」「簡単に」「正確に」「いつでも」「便利」などを活用して絞り込み深めていく。 ・必要に応じて類似問題を解き、理解を深める。 ・まとめは本時の課題に対応するようにし、簡潔に、児童の言葉や授業でのキーワードを入れてノートに書かせる。
見通す 調べる	3 7	2 本時の課題をつかむ。 3 解決の見通しをもつ。 4 求め方を考える。	
深める	20 (15)	5 考えを検討し合う。	
まとめる	5	6 学習のまとめをする。	
確かめる	5 (10)	7 確認問題を解く。 8 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・確認問題はシンプルにして、全員ができることを想定した問題にする。 ・ねらいを達成できたか、自分の考えを表現できたか、意欲的に取り組めたか、など自分がどのようにして変容したかを簡単にノートに書く。

4 おわりに

4月に、研究主任として「城南型算数」を全職員で共通理解するための「研修の手引き」を作成し始めた。そして、研究授業がスタート。6年生の授業を参観し、目指す姿は分かったものの、目の前の子どもたちをどう育てたらいいのか四苦八苦の学級経営。城南小学校には、そんな子どもたちが育っていくための様々な取り組みがあった。生活指導部を始め、全校一斉道徳、14人のボランティアによる読み聞かせ、充実した図書館経営、縦割り活動などを通して、子どもたちは育ってきた。学級経営としては、一人一人が輝ける場面を見通した指導を心がけた。絵や作文コンクールで脚光を浴びる子。授業の難しい課題で活躍する子。集会活動で自分をのびのびと表現できる子。等、一人一人に活躍する場を与え、自己肯定感をもたせるようにした。

「学び合い」を成立させるための子ども同士の好ましい人間関係づくりをめざして、取り組みは現在進行形である。

